



第2号 発行日 令和元年5月10日
青森県立弘前南高等学校サイエンス

弘前南 SSH 通信 CELESTE

南陵ラボが始まりました！実際に探究活動を行う前に、必要な基礎知識を学びました。

◇科学倫理講演会

4月24日(水) 対象:2年次 SSH コース 場所:26HR 教室

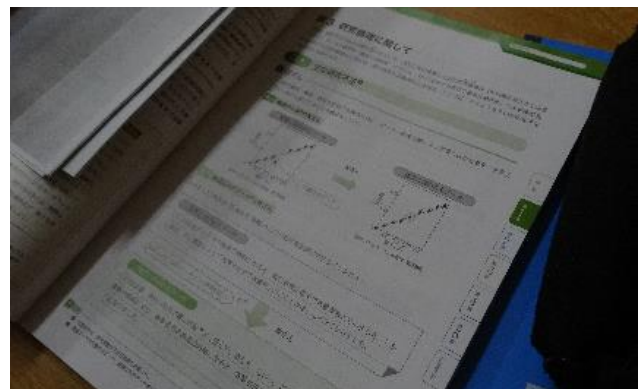


南陵ラボIIの1回目の授業は、弘前大学教育学部の長南幸安(ちょうなん・ゆきやす)教授を招いて、科学倫理に関する講演をしていただきました。研究不正や研究者が持つべき価値観についてのお話を聞き、これから課題研究を行う上で改めて気持ちを締めましたようです。



【生徒感想抜粋】

- たくさんの有名な人がデータの改ざんなどを疑われていると知り驚いた。その中で完璧な論文を発表している人がとても素晴らしいことに改めて気づいた。
- 1年生の時に研究ノートにシャーペンで書いていたので、捏造と疑われないようにボールペンで書く。絵も用いながらデータなどもしっかり記録しておく。
- 科学倫理は理系だけでなく、文系にも関係があると学ぶことができた。



◇参加者募集！ 全国物理コンテスト「物理チャレンジ」

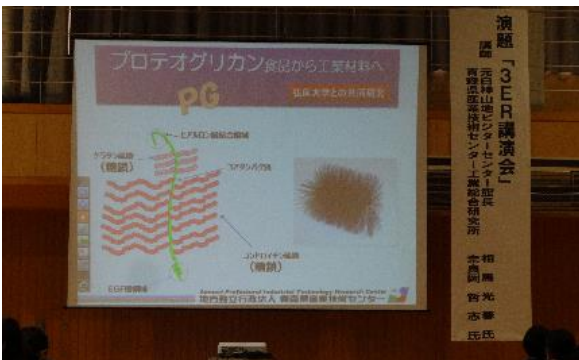
もっと物理が好きになる、出会いと体験の場 〆切:5月31日(金)

- 第1チャレンジ:実験課題レポート、理論問題コンテスト(マークシート)により約100名選抜
- 第2チャレンジ:合宿形式で理論問題コンテスト、実験問題コンテストにより12名選抜

◇3ER講演会

4月25日(木) 対象:1年次 場所:第1体育館、各教室

5~7校時に、元白神山地ビジターセンター館長相馬光春氏、青森県産業技術センター工業総合研究所奈良岡哲志氏の2名を講師として迎え、青森県の生態系・産業系資源について講演していただきました。相馬氏は「いのちがつながっている」というテーマで森と水の関係、森が命を育てていること、白神山地のブナ林が固有の種を保存していることなどを講演しました。奈良岡氏は「青森県の産業資源について」というテーマで農林部門、水産部門、食品加工部門、工業部門などの分野ごとに産業資源を詳しく講演しました。この講演内容も参考にして各自の研究テーマ・内容を決めることになるので、キーワードをメモしながら興味深く熱心に聞いていました。講演後、講演内容についての感想をまとめました。



【生徒感想抜粋】

- 地球が太陽系の中で水の豊富な惑星であることを、具体的な数値を見て実感した。その水が地球上で様々な状態に変化しながら循環することで、多様な生物の生活や生態系のバランスを保っていることがわかった。
- 講演を通して、地球の歴史を知り、命の尊さや自然との向きあい方をあらためて考えさせられた。自然界には多くの命のやりとりがある。食物連鎖で失う命もあれば新しく誕生する命もある。命の大切さを知ること、自然や地球を守る意識が高まるかもしれない。
- 青森県にはたくさんの資源があるのに、人口減少や少子高齢化、働く場所や所得が少ないなど、いろいろな課題があることに気づいた。課題を解決するため、新技術や新商品、新しいサービス、新エネルギー開発、品質の向上と信頼性の向上などで、商品の付加価値を高めて、資源をフル活用することがとても大切だと感じた。
- オルニチンやプロテオグリカンなどテレビでも紹介されている健康食品なども産業資源だとわかった。シジミに含まれているオルニチンは、本当に効果があるか摂取試験を行ったり、シジミから取り出せるオルニチンの量には温度が関係していることを研究したりして産業資源の開発を進めていることに感心した。